



森下仁丹

報道関係各位

2013年6月18日
森下仁丹株式会社

**血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材の開発について
「MeDICI プロジェクト」(国立循環器病研究センター)の開発支援シーズに採択**

森下仁丹株式会社(本社:大阪府中央区/代表取締役社長:駒村純一)は、アンジェスMG株式会社(本社:大阪府茨木市/代表取締役社長:山田英、以下「アンジェスMG」)と共同で進めている「血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材」の開発が、この度、国立循環器病研究センターの「MeDICIプロジェクト(Medical Device Innovation Circumstances Improvement Project:医療機器イノベーション環境整備プロジェクト)」の開発支援シーズとして採択されましたのでお知らせいたします。今回の開発プロジェクトは、国立循環器病研究センターの北風 政史 臨床研究部部長が研究統括を行い、大阪大学大学院医学系研究科の森下竜一教授が研究立案・遂行、当社が製品開発を推進いたします。

国立循環器病研究センターは、厚生労働省が進める「早期・探索的臨床試験拠点整備事業(平成 23 年度開始)」において全国 5 拠点のひとつとして選定された施設で、大阪大学とともに脳・心血管分野の拠点となるとともに、選定された 5 施設のうち唯一医療機器の開発を手かけています。本事業では、「国内の医療機器開発環境の改革」を目指す「MeDICIプロジェクト」を進めています。

■血流不全を伴う皮膚潰瘍と、アンジェスMGとの共同開発について

今回の治療対象疾患である血流不全を伴う皮膚潰瘍は、免疫の機能が低下し病原菌に感染しやすい状態になることがあり、その制御が難しいことが問題となっています。また、局所の感染を防ぐ治療薬は、菌の増殖制御だけでなく、傷の修復に必要な組織再生能にも影響を与えてしまうため、創傷治癒に悪影響がなく、感染も防御できる新しいタイプの抗菌性創傷被覆・保護材の開発が求められています。

こうした背景のもと、アンジェスMGと大阪大学が見出した「傷の修復を妨害せずに抗菌活性を持つ機能性ペプチド」と、当社が開発中の高分子を用いた「創傷治療用の高機能シートの製造技術」を組み合わせた「血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材」の開発を進めており、来年度以降の新たな医療機器の製品化を目指しております。

なお、本研究の一部は、経済産業省平成 22 年度「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」実証事業の助成を受け実施しております。

【リリースについてのお問合せ先】

森下仁丹株式会社 広報宣伝部 担当:磯部・大北 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108
共同PR株式会社 第四業務局 担当:長尾・呉 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-1005

